

第44回 小山田記念賞受賞者表彰

小山田記念賞は、財団法人軽金属奨学会 元理事長 小山田裕吉氏の功績を記念し、(株)軽金属奨学会より本会に寄贈されたもので、わが国におけるアルミニウムの生産ならびにアルミニウム部品および製品の製作に関係した優れた技術を対象とし、その技術を確立した発明、考案あるいは研究の功績者に贈られる。小山田記念賞選考委員会（委員長 新家光雄）の審査を経て、9月18日（金）に開催された(株)軽金属奨学会第98回理事会において「アルミ耐震補強工法の開発と実用化」の授賞を決定、(株)軽金属奨学会第117回秋期大会第1日目の11月14日（土）に電気通信大学において表彰式を挙行し、受賞者による特別講演が行われた。

受賞技術「アルミ耐震補強工法の開発と実用化」

受賞者



檜山 裕二郎 君
(株)住軽日軽エンジニアリング



大久保 昌治 君
(株)住軽日軽エンジニアリング

表彰理由

平成7年1月の阪神淡路大震災を踏まえ、同年耐震診断／改修を促進する法律「耐震改修促進法」が制定・施行された。耐震補強に関しては、従来鉄骨系やコンクリート系が大部分であり、構造強度を主目的として景観性、耐候性、施工性などについては必ずしも配慮されていなかったのが現状である。これに対して、主に学校建築を対象として軽量・耐食性に優れたアルミニウム合金を用いた立体トラスやブレースによる補強工法を開発し、財団法人日本建築防災協会の技術評価を取得してきた。

本開発はアルミニウムを用いた一連の耐震補強工法に関するものであるが、全体を通してアルミニウムの物性に対応した優れた工夫がなされている。また、アルミニウムが建築構造の重要な部分である「耐震」に採用されたことで社会的意義も大きい。平成20年度までに学校建築を中心に14件（アルミニウムの使用量は約180トン）の施行実績がある。平成21年度は32件（同、300トン）、平成22年度は48件（同、410トン）と予想され、今後も確実に伸びが期待されるアルミニウム構造開発品である。さらに補強された建物の取壊し時に発生する廃棄物もリサイクル可能で、まさに時代にマッチした製品である。